

中学校音楽科における思考力・判断力・表現力の育成を 目指したルーブリックの開発

—歌唱教材「荒城の月」の授業実践において—

小山 英恵*, 近藤 瞳**, 中谷華奈子**,
新角 麻友**, 赤穂 和幸**, 徐 慧偉**

(キーワード: 音楽科, ルーブリック, 「荒城の月」, 思考力・判断力・表現力)

1. はじめに

本稿は、鳴門教育大学大学院芸術系コース（音楽）の大学院生（以下、院生）を対象とする授業「教育実践フィールド研究（音楽科）」（2015年度）において、院生らが主体となって行った研究について報告するものである。

次期学習指導要領改訂に向けての議論（育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会、2014年）においては、育成すべき資質・能力の具体的内容として議論されている「新しい能力」の育成のために、知識・技能を活用して課題を解決するための「思考力・判断力・表現力」の一層の育成が必要不可欠であり、またその評価の在り方として知識・技能を活用することを求めるパフォーマンス評価を重視する必要があるとされている。それゆえ、パフォーマンス課題やその基本的なツールとしてのルーブリックについてのさらなる検討が求められている。

この状況をうけ、本研究では音楽科における思考力・判断力・表現力を育成するためのルーブリックの開発を行った。ルーブリックとは、質の変化を採点するための数レベルの尺度と、各レベルのパフォーマンスの特徴を説明する記述語から成る評価指標である（Wiggins, 1998）。

一般的にルーブリックは、正誤で判断することのできない質的なパフォーマンスを、記述語によって、より信頼性の高い採点を行うためのものとして理解されている。しかし、ルーブリックのより教育的な機能として次の2つを挙げることができる。1つは、教師の指導における機能であり、授業で目指す子どものパフォーマンス像とその伸びの様相を明らかにしておくことで、形成的評価に結びついた、より適切な指導を可能にすることである（小山, 2011年）。もう1つは、子どもの学習における機能であり、子どもと評価指標を共有することで、子ど

もが自己評価、自己調整し、自らのパフォーマンスを向上させることを可能にすることである（Wiggins, 1998）。

そこで、本研究ではとくにこのような機能に着目して、音楽科における思考力・判断力・表現力を育成するための指導と学習に生かすルーブリックを開発することを目指した。その際、研究の第一歩として歌唱指導を対象とした。開発したのは次の2つである。1つは、教師用ルーブリックであり、歌唱の技術だけでなく、歌唱表現の創意工夫における思考・判断・表現の力を総合する歌唱パフォーマンス像とその伸びの様相を明らかにするものである。もう1つは、子どもが自らのパフォーマンスを向上させるために参照する生徒用ルーブリックである。これは、歌唱表現における思考・判断・表現の力と、そのプロセスの遂行における思考・判断・表現の力の2つを子どもが働かせることを意図するものである。ルーブリックの指導と学習機能に着目し、生徒用ルーブリックまで開発すること、ここに本研究の独自性がある。

ルーブリックの開発は、鳴門教育大学附属中学校教諭上原祥子先生のご協力のもとで、第3学年38名のクラスの生徒達を対象にした歌唱教材「荒城の月」の授業実践（2015年11～12月）において行った。本研究の目的のもとでは学年や教材曲の選択に関してとくに条件を設ける必要はないと判断し、上原先生に年間指導計画等の学校現場の事情をふまえて決定していただいた。

ルーブリックは、子どものパフォーマンスから作成するものである。ただし、求めるパフォーマンス像を明確にするために教師が実践前に予備的ルーブリックを作成することが一般的である。また、ルーブリック作成後、多数の評価者による評価の一貫性を確保するために、評価基準・基準を討議するモデレーションを行うことが推奨されている（西岡, 2003年）。そこで、本研究では、ルーブリック開発のために以下のような手続きをとった。
①上原先生作成の授業実施案をもとに予備的ルーブリッ

*鳴門教育大学芸術・健康系教育部

**鳴門教育大学大学院芸術系コース（音楽）

- クと生徒用予備的ループリックを作成する。
- ②生徒用予備的ループリックを授業において試行する。
- ③生徒のパフォーマンスから、ループリックを作成する。
作成したループリックおよび生徒用予備的ループリックの試行結果をふまえて、生徒用ループリックを作成する。
- ④作成したループリックの評価規準・基準を討議するために、音楽の専門的立場にある方からご意見を伺う。
以下、この手続きに沿って論を進める。

2. 予備的ループリックの作成

2. 1. 予備的ループリックの作成過程

上原先生からいただいた授業実施案の内容は資料1の通りである。この案をもとに院生らが予備的ループリックの作成を進めた。作成するにあたって、本研究の目的のもとで留意したことは主に3つある。1つは、指導要録における4観点を念頭に置きつつ、その区分にしばられることなく、思考・判断・表現の力を働かせて歌唱表現を追究するプロセスを意識して作成することである。

2つ目は記述語の具体性である。教師にとっては、記述語をできるだけ具体的にし、パフォーマンスの伸びの様相を明らかにしておくことで、より適切な指導が可能になる。また生徒にとっては、自ら評価し、パフォーマンスを向上させやすくなることが期待できる。

3つ目は、生徒用ループリックにおいて、生徒が採点や評価ではなく、自らのパフォーマンスの向上を意識するように作成することである。評価指標を生徒に示すと、生徒が表現の追究そのものではなく、評価や優劣を意識してしまう可能性がある。そこで、生徒が「自分なりの表現を追求したい」といった自らの美的欲求を支えるも

のとしてループリックを捉えられるように留意した。

これらの留意点をふまえて、まず、題材の目標である「(1)『荒城の月』の歌詞が表す情景や心情、曲想に関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を自己のイメージや感情を広げ、主体的に歌唱する。」、(2)『荒城の月』の音楽的な特徴を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想を味わい、歌い方を工夫する。」を、リズム、速度、旋律、強弱、形式、フレーズ、調に着目しながら達成できた時の具体的なパフォーマンスの特徴を総合して記述する全体的なループリックを作成した。当初、生徒のパフォーマンスは総合的にみた方がみとりやすいのではないかと考えていたためである。しかし、この全体的なループリックについて検討するうち、思考・判断・表現に関わる側面と技術的な側面のレベルが異なるときに評価に困るという懸念が浮かび上がった。そこで、これを観点別にわけることとした。

各観点は、「(1)音楽的な特徴の理解と創意工夫」、「(2)歌詞の理解、表現の創意工夫、表現の技能」、「(3)言葉の発音」、「(4)歌詞、音程、リズムの正確さ」、「(5)姿勢と発声」の5つである。(1)および(2)の観点が指導要録における「音楽への関心・意欲・態度」「音楽表現の創意工夫」「音楽表現の技能」に、(3)～(5)が「音楽表現の技能」に対応するものとした。これらの各観点において「3素晴らしい」、「2よい」、「1不十分」の各基準を設定した。

2. 2. 予備的ループリック

作成した予備的ループリックは資料2のとおりである。

「(1)音楽的な特徴の理解と創意工夫」について、「1不十分」は、2小節単位のフレーズのまとまりや二部形式、強弱記号を理解できていない段階とした。「2よい」は、歌詞の七五調とフレーズのまとまり、二部形式やダイナミクスの変化を理解し、ワークシートに記入するとともにそのように歌うよう努力することができている段階である。「3素晴らしい」は、2の各要素に加えて十分に歌唱で表現できている状態とした。

「(2)歌詞の理解、表現の創意工夫、表現の技能」について、「1不十分」は、歌詞を理解しようと努力中で表現の工夫を考えられていない段階とした。「2よい」は、歌詞の意味を理解し、情景や心情を思い浮かべることができ、自己のイメージを広げて歌い方の工夫を考え、ワークシートに記入するとともに主体的に歌唱しようと努力できている段階である。「3素晴らしい」は、2の各要素に加えて曲にふさわしい音楽表現を考え、解釈に応じて強弱や速度を変えるなどの工夫をし、主体的に歌唱することができている状態とした。

「(3)言葉の発音」の「1不十分」は、子音・母音や濁音・鼻濁音の発音を意識できていない段階、「2よい」は、文節に区切ったときの最初の文字の子音（もしくは母

資料1 授業実施案

題材名：歌詞が表す情景や心情を感じ取り、曲想を味わいながら歌おう

題材の目標：

- (1) 「荒城の月」の歌詞が表す情景や心情、曲想に関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を自己のイメージや感情を広げ、主体的に歌唱する。
- (2) 「荒城の月」の音楽的な特徴を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想を味わい、歌い方を工夫する。

教材：「荒城の月」（土井晩翠作詞／滝廉太郎作曲）

学習指導要領との関連：

- A 表現 (1) ア 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。
- 〔共通事項〕 ア リズム、速度、旋律、強弱、形式
イ フレーズ、調

資料2 予備的ルーブリック

教師用予備的ルーブリック		(3) 言葉の発音	
(1) 音楽的な特徴の理解と創意工夫		3 素晴らしい	・文節に区切ったときの最初の文字の子音（もしくは母音）や濁音・鼻濁音を意識してなめらかに歌えている。
2 よい	・歌詞の七五調にも一致する2小節単位である、この曲のフレーズを意識して歌うことが出来ている。 ・A・A・B・Aという二部形式を意識してBの部分での変化を理解し歌唱で実現できている。 ・強弱記号を読み取り、旋律の形とも併せ、ダイナミクスの変化を自然な抑揚をつけて歌唱で表現出来ている。	2 よい	・文節に区切ったときの最初の文字の子音（もしくは母音）や濁音・鼻濁音を意識して歌えているが、強調しすぎてしまっている。
1 不十分	・2小節単位である、この曲のフレーズのまとまりを理解していない。 ・A・A・B・Aという二部形式を意識できていない。 ・強弱記号を読み取っていない。	1 不十分	・子音や母音などの発音や濁音・鼻濁音を意識できていない。
(2) 歌詞の理解、表現の創意工夫、表現の技能		(4) 歌詞、音程、リズムの正確さ	
3 素晴らしい	・歌詞の意味を理解し、情景や心情を思い浮かべることができている。 ・曲にふさわしい音楽表現を考えるとともに、自己のイメージを広げ、解釈に応じて強弱や速度を変えるなどの歌い方の工夫をし、主体的に歌唱することができている。	2 素晴らしい	・歌詞や音程、リズムなどを正確に歌うことができる。
2 よい	・歌詞の意味を理解し、情景や心情を思い浮かべることができている。 ・自己のイメージを広げて歌い方の工夫を考え、ワークシートに記入するとともに、主体的に歌唱しようと努力することができている。	1 よい	・歌詞や音程、リズムなどが曖昧で正確に歌えていない。
1 不十分	・歌詞の意味を理解して情景や心情を思い浮かべようと努力している。 ・自己のイメージを広げることができず、表現の工夫を考えられていない。	(5) 姿勢と発声	
		3 素晴らしい	・足を握りこぶしが2、3個入るぐらいに開けることができている。 ・肩をまわして下げ、力が抜くことができている。 ・背筋を伸ばし、耳たぶとくるぶしを結んだ直線が地面と垂直になっている。 ・常に重心をかかずに乗せることができている。 ・視線は斜め15度上を向いている。 ・ボールを、曲線を描くように飛ばすようなイメージをもって発声することができている。 ・教室の後ろまで声を届けるイメージをもって発声することができている。
		2 よい	・足を握りこぶしが2、3個入るぐらいに開けることができている。 ・肩をまわして下げ、力が抜くことができている。 ・背筋をまっすぐに伸ばすことができている。 ・重心がほぼ適正な位置にある。 ・ボールを、曲線を描くように飛ばすようなイメージをもって発声しようとしているが、まだできていない。 ・教室の後ろまで声を届けるイメージをもとうとしているが、まだできていない。
		1 不十分	・足を握りこぶしが2、3個入るぐらいに開けることができている。 ・背中が丸まって猫背になっていた、お腹が出ていたりする。 ・重心が後ろに行きすぎていたり、前に行きすぎていたりする。

音）や濁音・鼻濁音を意識して歌えているが、強調しすぎてしまっている段階とした。「3 素晴らしい」は、文節に区切ったときの最初の文字の子音（もしくは母音）や濁音・鼻濁音を意識できおり、かつなめらかに歌えている状態とした。

「(4)歌詞、音程、リズムの正確さ」は、正確か否かで「2 素晴らしい」と「1 よい」の2つの基準とした。

「(5)姿勢と発声」では、生徒が足元から姿勢を作り、注意を向ける体の場所が徐々に上に上がるように記述語の配置順を工夫した。「足を握りこぶしが2、3個入るぐらいに開けることができている。」は最も初歩的な課題であると考え、全ての基準に取り入れることとした。他の特徴としては、「1 不十分」は、背筋がまっすぐに伸びておらず、重心の位置が定まっていなかったとした。「2 よい」は、肩をまわして下げ力を抜くことができている、背筋をまっすぐに伸ばすことができている、重心がほぼ適正な位置にある、発声のイメージをもつことができているが十分な発声はできていないとした。「3 素晴らしい」は、2の各要素に加えて、背筋を伸ばし耳たぶとくるぶしを結んだ直線が地面と垂直になっている、視線が斜め45度上を向いている、ボールを曲線を描くように飛ばすよう

なイメージをもって発声することができているとした。

これらの内容と対応させ、生徒用予備的ルーブリックを作成した。その際、記述語の内容を「私は」という一人称の文章に置き換えることにより、生徒自身が、評価ではなくパフォーマンスの向上を意識できるようにした。

3. 授業実践と生徒用予備的ルーブリックの試行

3. 1. 授業実践全体の流れ

上原先生が本題材において子どもたちの学習のゴールとして設定されたのは、「滝廉太郎記念全日本高等学校声楽コンクールに出場しよう」というパフォーマンス課題である。生徒たちはこのコンクールへの出場を意識して練習し、大会と同様の課題で実技試験を行うのである。このコンクールでは、課題曲が滝廉太郎作曲の「荒磯」、「荒城の月」、「納涼」、そして山田耕筰編曲の「秋の月」から1曲を選曲するものとされており、「荒城の月」に限っては1番から4番の歌詞のうち希望する2つを選ぶことになっている。本題材では、全員が「荒城の月」を選んだものとし、コンクールと同様に、歌詞については生徒自身が希望する2つの歌詞を選択し、歌唱すること

とした。本題材は全4時間で行った。第1,2時の授業の詳細は資料3および4のとおりである。

第1時では、歌詞の情景や心情について学習を行った。生徒たちはまず、CDで「荒城の月」を鑑賞し、「暗い、悲しい、重い、眠い」などの所感をもった。次に、歌詞の現代語訳を読んで内容を理解するとともに、歌詞が七五調であること、1番と2番が対比関係にあること等を学習した。さらに、歌詞が表す情景や心情について考えた。生徒からは、「無常感、月（自然）と城（人工物）の対比、栄枯盛衰、虚しさ、儚さ」等の意見が出された。これらの考えと、平家物語や松尾芭蕉の俳句等、国語科の学習内容と関連付けながら歌詞の理解を深めていった。

資料3 第1時の授業概要（院生による記録）

生徒の活動
鑑賞用CDの「荒城の月」を鑑賞する。
鑑賞した所感を発表・共有する。
七五調を意識しながら歌詞を朗読する。
起立して旋律唱をする。
歌詞を付けずに「HA」で歌唱する。
歌唱する際の姿勢を確認して、歌詞で歌唱する。
教科書を読み、滝廉太郎について学ぶ。
ワークシートを用いて、楽曲の歌詞の内容や特徴を捉える。 —七五調であることを理解する —現代語訳を読み、歌詞の内容を学ぶ —1番と2番が対比関係にあることを学ぶ
情景や心情について考える。
国語科と関連付けながら、所感と結びつける。 —平家物語や松尾芭蕉の俳句など
1番と4番だけ歌唱する。
本題材の学習の目標と見とおしを理解する。 —滝廉太郎記念全日本高等学校声楽コンクールを意識する

資料4 第2時の授業概要（院生による記録）

生徒の活動
発声練習をする。
前回の授業内容を思い起こしながら歌詞唱をする。
ワークシートを用いて、歌詞を意識しながら旋律の下記の特徴に着目する。 —二部形式であること —七五調のリズムである —Bに着目（浜辺の歌との比較）
米良美一さんの演奏を鑑賞する。 —気づいたことをワークシートに書き込む。
気づきを発表・共有する。
歌い方の工夫を考える。（個人活動） —歌詞を2つ選ぶ —自分の目指す歌い方を虎の巻からそれぞれ選ぶ —工夫の仕方をワークシートの楽譜に書き込む
友達と相談しながら歌い方の工夫を考える。（班活動） —キーボードを使って歌の練習をする —虎の巻を参考にしながら、工夫の仕方をより具体的に考える
まとめとして全員で1番を歌唱する。

第2時には、A（a a'）B（b a'）の二部形式であること、七五調のリズムであること等の音楽的特徴を学習した。その後、生徒用予備的ループリックを使用しながら、これまでのすべての学習内容をふまえて「荒城の月」の歌い方の工夫を個人活動と班活動を通して考え、歌唱表現へとつなげる学習を行った。その際、「滝廉太郎記念全日本高等学校声楽コンクール」の入賞者でもある歌手米良美一氏のCDを鑑賞し、表現の工夫のヒントを得た。

続く第3,4時において歌唱の実技試験を行った。実技試験は個別で行った。歌唱の実技試験と並行して、別室で英語の試験を行っており、生徒は自分の歌唱の試験の少し前に音楽準備室へ移動し、そこで練習をした後、音楽室で試験に臨むという形である。実技試験は、上原先生が伴奏をし、テンポに関しては生徒の工夫したい点に関わるため、自由に歌うように1人ずつに伝えた。

上原先生によれば、このような題材のおおまかな流れは、先生が通常の授業で実施されている内容であるという。普段の授業と違う点としては、まず、個別の実技試験のパフォーマンス課題をゴールとしたことが挙げられる。通常は、クラス全員での斉唱によって学習のまとめをされるということである。また、生徒用予備的ループリックを用いたことである。今回の研究では、上原先生のご提案で、院生が作成した生徒用予備的ループリックの記述語に番号を振ったものを『「荒城の月」虎の巻』（以下「虎の巻」）として扱った（資料5）。授業における「虎の巻」の用い方については上原先生にお任せした。

3. 2. 予備的ループリックの試行の概要

「虎の巻」は、第2時の歌い方の工夫を考える際に生徒に配布された。生徒は「虎の巻」とワークシートを用いて、工夫の仕方を考えるとともに、自身の歌唱がよりよいものになるように主体的に取り組んだ。

まず、生徒たちは、「虎の巻」に示された5つの項目それぞれから目指すべきレベルを選択し、ワークシートの楽譜に歌い方の工夫を具体的に書き込むという作業を個人で活動として行った。（言葉の発音の項目に関しては全員が最も望ましい①を選ぶこととした。）その後、学習班になり友達と意見交換をしながら、キーボードを使って実際に声を出しつつ歌唱表現の工夫を考えた。歌唱の工夫を考える際や行き詰まってしまった際に「虎の巻」を自由に参考にして、歌唱表現や歌唱技術の向上を目指すこととした。試験後は、客観的に自身の演奏を振り返り、自己評価をワークシートに記入した。この自己評価も「虎の巻」を用いて、実際の自分の演奏がどのレベルのものであったか各項目から選ぶこととした。

資料5 「虎の巻」生徒用予備的ルーブリック

目指せ！「荒城の月」マスター	
各項目で「3 素晴らしい」を目指して、「荒城の月」マスターになろう。	
(1) 音楽的な特徴の理解と表現の工夫	
3 素晴らしい	①私は七五調の歌詞のまとまりと2小節ごとになっている曲のフレーズを理解し、それを活かして歌の表現を工夫することができる。 ②私は、この曲がA・A・B・Aという二部形式であることを理解し、Bの部分では少し変化をつけて歌うことができる。 ③私は強弱記号を読み取り、旋律の形とも併せ、自然な抑揚の変化をつけて歌うことができる。
2 よい	④私は2小節ごとになっている曲のフレーズのまとまりと歌詞の七五調のまとまりを理解して、ワークシートに書くとともに、それを活かして歌の表現を工夫しようと努力している。 ⑤私はこの曲がA・A・B・Aという二部形式であることを理解し、ワークシートに書き、歌うときもBの部分では少し変化をさせて形式の感じを出すよう心がけている。 ⑥私は強弱記号を読み取り、旋律の形とも併せ、強い弱い変化をつけて歌うようにしている。
1 あと少し	⑦私は、フレーズというのをまだ、理解していない。 ⑧私は、この曲の形式についてはまだ知らない。 ⑨私は、楽譜にある不等号のような<>記号の意味が分からない。
(2) 歌詞の理解と表現の工夫	
3 素晴らしい	①私は歌詞の意味を理解し、情景や心情を思い浮かべることができている。 ②私は曲にあった表現の仕方を考え、さらに自分のイメージを広げて強弱や速度などを工夫し、歌うことができている。
2 よい	④私は歌詞の意味を理解し、情景や心情を思い浮かべることができている。 ⑤私は自分のイメージを広げて歌い方の工夫を考え、ワークシートに書くことができている。 ⑥私は工夫を生かして歌おうと努力することができている。
1 あと少し	⑦私は歌詞のわからない言葉の意味を調べ、詩の内容を理解しようと努力している。 ⑧私は歌い方の工夫をまだ考えられていない。
(3) 言葉の発音	
3 素晴らしい	①私は自然なフレーズの中で発音（子音・母音や濁音・鼻濁音）を意識して歌うことができる。
2 よい	②私は発音（子音・母音や濁音・鼻濁音）を意識できている。それらが不自然に強調されないように努力している。
1 あと少し	③私はまずは子音や母音を意識して歌うことができるようになりたい。 ④私は濁音・鼻濁音を意識して歌うことができるようになりたい。
(4) 歌詞、音程、リズムの正確さ	
2 よい	①私は歌詞を見ずに暗譜で歌うことができる。 ②私は音程、リズムなどを正確に歌うことができる。
1 あと少し	③私は歌詞を見ながら歌うことができる。 ④私は音程やリズムがつかみにくかったので、正確に歌えるようにしたい。
(5) 姿勢と発声	
3 素晴らしい	①私は足を握りこぶしが2、3個入るぐらいに開けることができている。 ②私は肩をまわして下げ、力が抜くことができている。 ③私は背筋を伸ばし、耳たぶとくるぶしを結んだ直線が地面と垂直になっている。 ④私は常に重心をかかかに乗せることができている。 ⑤私の視線は斜め15度上を向いている。 ⑥私はボールを、曲線を描くように飛ばすようなイメージをもって発声することができている。 ⑦私は教室の後ろまで声を届けるイメージをもって発声することができている。
2 よい	⑧私は足を握りこぶしが2、3個入るぐらいに開けることができている。 ⑨私は肩をまわして下げ、力が抜くことができている。 ⑩私は背筋をまっすぐに伸ばすことができている。 ⑪私は重心の位置をかかかに乗せることはできるが、常に保つことはできない。 ・私はボールを、曲線を描くように飛ばすようなイメージをもって発声 ⑫ようとしている。 ⑬私は教室の後ろまで声を届けるイメージをもとうとしている。
1 あと少し	⑭私は足を握りこぶしが2、3個入るぐらいに開けることができている。 ⑮私は背筋をまっすぐに伸ばそうと努力中である。 ⑯私は重心の位置がまだつかめていないので、探しているところだ。

3. 3. 生徒用予備的ルーブリック試行の様子

「虎の巻」が生徒たちに配布された第2時の個人活動では、歌唱を苦手とする生徒は自信がなく、「虎の巻」における1番下のレベルを、自分の目指すレベルとして選択していることが多かった。他の生徒も謙虚なのか、「3素晴らしい」を選択した生徒は少なかった。

班活動では、積極的に声を出して練習しているグループや、どんな歌い方が好ましいか比較しながら歌っているグループ、悩んでいるグループなど様々であった。「虎の巻」を参考にしながら内容を確認し合ったり、歌唱を工夫したりといった姿が見受けられたが、班活動の時間を使っても、生徒が「虎の巻」全てを読むことは難しく、ワークシートのみを用いて活動する生徒がいたことも事実である。しかしながら、歌い方の工夫を考えた第2時の最後に全員で歌唱した時は、第1時での歌唱と比較すると、より自信を持って歌えていたようだった。

第3時の試験直前に音楽準備室で練習をしている際には、「虎の巻」を参考にしながら書き込んだワークシートを手に取り、友達と一緒に声を出して練習している姿やどんな歌い方が良いか友達に相談している姿が見受けられた。試験後には、「虎の巻」の「教室の後ろまで声を届

けるイメージをもって発声する」という記述を意識してか、後ろまで声が届いていたか気にしたり、リズムを間違ってしまったと悔やんだりする生徒が数名いた。

学習後のワークシートをみると、詳細な書き込みが多数見受けられた。強弱の変化やテンポの変化、ブレスの位置、特に大切にしている言葉、子音に気を付けて歌うところ、どんなイメージを持って歌うかなど、生徒によって様々であるが自分なりの工夫が詳しく書き込まれているものがほとんどであった。一例を資料6に示す。生徒の工夫したい歌い方が実際の歌唱に明確に表れている生徒は稀であったが、多くの生徒に工夫したいところを意識して歌唱している姿を観察することができた。


上原先生は、生徒用予備的ルーブリックの効果として2点を挙げてくださった。1つは、表現の工夫について、生徒たちがいつも以上に細かく、具体的に考えたことである。2つ目は、「虎の巻」の文言を手本にすることで、ワークシートの書き込みが増え、内容も普段以上にしっかりと考えられていたことである。一方で、生徒たちが、「音程やリズムを正確に歌うこと」に意識が集中しすぎていたということも感じられたという。ここから、音楽科における思考・判断・表現の力の育成を目指すルーブリッ

資料6 生徒のワークシート(「3 素晴らしい」のアンカー)

3年

◇「荒城の月」虎の巻や、CDを参考に、歌詞の情景や心情、音楽の雰囲気合った歌い方を工夫してみよう。

選んだ歌詞：(1 番) と (4 番)



虎の巻の自分が目指す姿

(1) 音楽的な特徴の理解と表現の工夫 [①]
 (2) 歌詞の理解と表現の工夫 [①]
 (3) 言葉の発音 [①]
 (4) 歌詞・音程・リズムの正確さ [②]
 (5) 姿勢と発声 [①]

自分なりの工夫を書き込もう(速度・強弱・フレーズのまとまり・言葉の発音など)

Andante

1 はる(こう)のうは はのえんがめぐるきさずき かげさして 音楽力覚める
 2 あきじんえいの しものいる なきゆかりの かずみはて 音入して歌う
 3 いまこうじょうの やわつき かわらぬひかり たのめ 音入して歌う
 4 てんじょうかげは かねらねど かいこはうつ よのす 音入して歌う

ちよのまつ がえ わけい でし
 うるもつる びに てりそ いし
 かきにのこる ただか ずら
 うつさんと てか いまも なみ

ひかし のひかり いま いま
 ひかし のひかり いま いま
 まつに うとうは たのめ
 あきじょうの よのす

<自己評価>
 (1) 音楽的な特徴の理解と表現の工夫 [①]
 (2) 歌詞の理解と表現の工夫 [①]
 (3) 言葉の発音 [①]
 (4) 歌詞・音程・リズムの正確さ [③]
 (5) 姿勢と発声 [①]

クを生徒と共有する際、技術的な観点にとらわれすぎずにいかに自分なりの表現を追究させるかが課題となることがみえてきた。

4. ルーブリックの作成

4. 1. ルーブリックの作成方法

授業実践後、生徒たちの実際のパフォーマンスからルーブリックを作成した。作成にあたったのは、授業実施者である上原先生および本稿の著者全員の計7名の評価者である。ルーブリックの作成は次の手順で行った。

まず評価者らは、各生徒のパフォーマンスについて、歌い方の工夫について記入したワークシートと、実技試験の録画映像をもとに、「3 素晴らしい」、「2 良い」、「1 不十分」の3段階で評価した。評価に際しては、より妥当性のあるルーブリックを作成するためにも、予備的ルーブリックの観点や内容に厳密に沿った評価だけでなく、むしろ実際のパフォーマンスを総合的に評価することを心がけた。

次に、評価者間で「3 素晴らしい」と「1 不十分」の評価に分かれた数人の生徒のパフォーマンスに関して議論を行った。ワークシートや実技試験の録画を見直ししながら評価者間の観点のすりあわせを行い、3段階でどの

資料7 ルーブリック(教師用)

■歌唱パフォーマンスのルーブリック	
① 観点別ルーブリック	
(1) 歌唱のパフォーマンスに表れる歌唱表現への意欲、意図	
2 良い	・聴いていて、歌唱表現への意欲や意図が感じられる。(このように歌いたい、表現したい、聴き手に届けようという意図が伝わってくる)
1 不十分	・聴いていて、歌いたくない様子や自信のなさが見える。(このように歌いたい、表現したいという意図が感じられない)
(2) 音楽的な特徴の理解と創意工夫	
3 素晴らしい	下記の1つ以上の点を満たしている。 ・歌詞の七五調にも一致する2小節単位である、この曲のフレーズを意識して歌うことができる。(大きなフレーズの流れが感じられる等) ・A (a a') B (b a') という二部形式を意識してbの部分での変化を理解し歌唱で表現できている。(bの部分だけ一息で歌っている等) ・強弱記号を読み取り、旋律の形と併せ、ダイナミクスの変化を自然な抑揚をつけて歌唱で表現できている。
2 良い	下記の1つ以上の点を満たしている。 ・歌詞の七五調にも一致する2小節単位である、この曲のフレーズのまとまりを理解しワークシートに記入し、そのように歌おうとしている。(まだ一つの音として歌われレガートでない) ・A (a a') B (b a') という二部形式を意識してbの部分での変化を理解しワークシートに記入し、そのように歌おうとしている。(まだbの部分に変化が表れていない) ・強弱記号を読み取りダイナミクスの変化を歌唱で表現しようとしている。(まだ抑揚がない) ・(※全体としてワークシートへの記述が少なくない)
1 不十分	・2小節単位である、この曲のフレーズのまとまりを理解できていない。 ・A (a a') B (b a') という二部形式を意識できていない。 ・強弱記号を読み取っていない。 ・(※ワークシートへの記述ができていない)
(3) 歌詞の理解と自分なりの表現の工夫	
3 素晴らしい	・歌詞の意味、情景や心情を理解し、自分なりの気持ちや思いを込めて歌うことができる。(詩情が伝わってくる、歌い手の気持ちや思いが感じられる、言葉の意味を重んじて歌っている、あなたらしい感じを受ける等) ・歌詞の内容から自分なりのイメージを広げ、解釈に応じた強弱や速度を変えるなどの歌い方の工夫をし、主体的に歌唱することができる。(自分の速度で歌う、最後にリタラゲンドをかけて終息感を出している、4番の速度を1番よりも落としたりして歌っている等) ・歌詞の意味を理解し、情景や心情を思い浮かべることができる。(伝わってこない) ・歌詞の内容から自分なりのイメージを広げて歌い方の工夫を考え、ワークシートに記入するとともに、主体的に歌唱しようとしている。(まだ表情が乏しくのっぺりとした印象、歌詞の名詞と助詞の区別がない等) ・(※全体としてワークシートへの記述が少なくない)
2 良い	・歌詞の意味を理解していない。情景や心情を思い浮かべられない。 ・歌詞の内容から自分なりのイメージを広げることができず、表現の工夫を考えられていない。(※ワークシートへの記述ができていない)
1 不十分	・歌詞の意味を理解していない。情景や心情を思い浮かべられない。 ・歌詞の内容から自分なりのイメージを広げることができず、表現の工夫を考えられていない。(※ワークシートへの記述ができていない)
(4) 言葉の発音	
3 素晴らしい	・文節に区切ったときの最初の文字の子音(もしくは母音)や濁音・鼻音を意識してなめらかに歌えている。(聴いていて違和感を覚えない)
2 良い	・文節に区切ったときの最初の文字の子音(もしくは母音)や濁音・鼻音を意識して歌えているが、強調しすぎてしまっている。(歌詞の発音がところどころ不明瞭である、「こうじょう」が「KOWJOU」と聞こえる等)
1 不十分	・子音や母音などの発音や濁音・鼻音を意識できていない。(言葉の発音が不明瞭で歌詞が伝わっていない)
(5) 音程、リズムの正確さ	
2 良い	・音程、リズムなどを正確に歌うことができる。(歌いだしのタイミングが取れる、絶対音としては低めだが相対音としては正確等も含む)
1 不十分	・音程、リズムなどが曖昧で正確に歌えていない。(速度がだんだん遅くなってしまいう等)
(6) 姿勢と発声	
3 素晴らしい	下記の4つ以上の点を満たしている。 ・足を握りこぶしが2、3個入るぐらいに開けることができる。 ・力を抜き、背筋を伸ばし、耳たぶとくるぶしを結んだ直線が地面と垂直になっている。(姿勢が良い) ・常に重心をしっかりと乗せることができる。 ・腹式呼吸ができている。(声がお腹とつながって自然な発声ができている、高い音まできれいに息を出している、ビブラートができている等) ・ボールを、曲線を描くように飛ばすようなイメージ、および教室の後ろまで声を届けるイメージをもって発声することができる。(声がよく出ている)
2 良い	下記の3つ以上の点を満たしている。 ・足を握りこぶしが2、3個入るぐらいに開けることができる。 ・背筋をまっすぐに伸ばすことができる。 ・重心をしっかりと乗せることができる。 ・腹式呼吸ができている。 ・ボールを、曲線を描くように飛ばすようなイメージ、および教室の後ろまで声を届けるイメージをもって発声することができる。 ・(上記のうち、とくに重心が音楽に関係なくぶれている、地声で歌っている、肩で息をしている、声量が弱い等のいずれかの問題がみられる)
1 不十分	・足を握りこぶしが2、3個入るぐらいに開けることができていない。 ・背中が丸まって猫背になっていたり、お腹が出ていたりする。(頭が下がっている、姿勢が悪い) ・重心が後ろに引きずがっていたり、前に引きずがっていたりする。 ・声がほとんど出ていない
・全体的ルーブリック(総合評価)	
3 素晴らしい (アンカー: No.9,15,34)	・すべての観点で質の高いパフォーマンスがみられるもの。 ・技術的な側面(観点(4)~(6))においてやや不足が認められるもの、表現の努力(観点(1)~(3))において質の高いパフォーマンスがみられるもの。(音程がやや不正確、高音と低音の声の質に若干の問題がある、声量が十分でない、ワークシートに書かれている内容が十分に歌声に表れていない等の不足があるが、2~3つ以上の表現の工夫がみられる等)
2 良い (アンカー: No.25,38)	・声もある程度出ており、音程やリズムが正確で楽譜に忠実に歌っているが、表現の工夫や表情(観点(1)~(3))に乏しいもの。 ・いずれかの観点において質が高いが、他のいずれかの観点において質が低いもの。
1 不十分 (アンカー: No.7,8,22)	・すべての観点において質が低いもの。 ・表現の意欲がみられない場合でも、音程が大幅に間違っている等技術的な観点において大きな問題があるもの。
■学習者のルーブリック	
(1) 情報の活用	
2 良い	・参考用CDからヒントを得て、自らの歌唱表現を高めている。(得たヒントをワークシートに記述している) ・生徒用ルーブリックを適切に活用し、自らの歌唱表現を高めている。
1 不十分	・参考用CDからヒントを得ていない。 ・生徒用ルーブリックを活用していない。
(2) 協同的な学び	
2 良い	・友だちの歌唱表現を参考にして、自らの歌唱表現を高めている。 ・相互評価による友だちの意見を取り入れ、自らの歌唱表現を高めている。 (友だちからの意見等をワークシートに記述している)
1 不十分	・友だちの歌唱表現から学んでいない。 ・相互評価による友だちの意見を取り入れていない。

評価と判断されるのかを再度慎重に検討した。

その後、とくに、評価者全員が3の評価、2の評価、1の評価をつけた生徒に着目しながら、「3素晴らしい」、「2良い」、「1不十分」の各段階のパフォーマンスの特徴を明らかにしていった。まず、各段階のパフォーマンスの特徴を観点に分けずに総合的に記述した後、それらを観点別に整理した。総合的記述から観点別への経緯を経たことで、予備的ルーブリックの際に問題となったパフォーマンスの総合的な評価についても議論が及んだ。この議論を経て、著者らは観点別評価の総合評価としての全体的なルーブリックを作成し、またこれらの観点と記述語の内容に沿って生徒用ルーブリックを作成した。

4. 2. 作成したルーブリックについて

作成したルーブリックおよび生徒用ルーブリックは、資料7, 8のとおりである。結果として、予備的ルーブリックの多くの内容に妥当性があったため、ここでは予備的ルーブリックから変化した点に焦点をあてて説明していく。まず、予備的ルーブリックにおける観点(2)「歌詞の理解と表現の工夫」が「歌詞の理解と自分なりの表現の工夫」に修正され、歌い手の気持ちや思いを込めているという記述語が加わった。

「姿勢と発声」の観点では、腹式呼吸に関する記述語が

加わった。他の記述語に関しては、生徒のパフォーマンスの特徴に即して文章を整理した。

また、予備的ルーブリックの段階では、「歌詞、音程、リズムの正確さ」の観点で、暗譜した状態を特徴として示していたが、授業時数の関係で暗譜が難しいことが明らかになったため、暗譜についての記述語を削除した。

ルーブリックで新たに加わった観点は、「歌唱のパフォーマンスに表れる歌唱表現への意欲、意志」である。実際の歌唱のパフォーマンスに、生徒の歌唱表現への意欲や意志が明確に表れることが評価者間で一致した。

観点別ルーブリックを以上のように示したうえで、全体的なルーブリックと、各レベルに対応するアンカーを明示した。先の資料6は「3素晴らしい」のアンカーのワークシートである。評価者間で一致したのは、思考・判断・表現の力としての自分なりの表現の工夫に関わる観点（新観点(1)～(3)）に重みを付けることである。技術的な側面に関わる観点（新観点(4)～(6)）においてやや不足がみられるものの、表現の工夫の観点において質の高いパフォーマンスがみられる場合は、総合的に「3素晴らしい」と判断された。ただし、技術的な側面に大きな問題がみつめられる場合はその限りではないとした。声もある程度出ており、音程やリズムが正確で楽譜に忠実に歌えているが、表現の工夫や表情（観点(1)～(3)）に乏

資料8 生徒用ルーブリック

「荒城の月」 虎の巻

目指せ！ レベルアップ！

■意義その一：以下の3つの項目をヒントに、「荒城の月」を深く理解しながら、自分なりの表現を追究しよう

(1) 歌唱表現への意欲、意欲をもつべし

2 良い	私は、このように歌いたい、このように表現したいという意欲や自分なりの意欲を強くもっている。
1 あと少し	私は、(2)と(3)をヒントにして、このように歌いたい、このように表現したいという意欲や意欲をもとうとしているところだ。

(2) 音楽的な特徴を理解して表現を工夫すべし

3 素晴らしい	私は、以下の1つ以上の点を実現できている。 ・私は七五調の歌詞のままとまりと2小節ごとになっている曲のフレーズを理解し、それを活かして歌の表現を工夫することができる。 ・私は、この曲が A (a a') B (b a') という二部形式であることを理解し、bの部分では少し変化をつけて歌うことができる。 ・私は強弱記号を読み取り、旋律の形と併せ、自然な抑揚の変化をつけて歌うことができる。
2 良い	私は、以下の1つ以上の点を実現できている。 ・私は2小節ごとになっている曲のフレーズのままとまりと歌詞の七五調のままとまりを理解して、ワークシートに書くとともに、それを活かして歌の表現を工夫しようとしている。 ・私はこの曲が A (a a') B (b a') という二部形式であることを理解し、ワークシートに書き、歌うときもbの部分では少し変化をさせて形式の感じを出す心がけている。 ・私は強弱記号を読み取り、旋律の形と併せ、強い弱いの変化をつけて歌うようになっている。
1 あと少し	私は、この曲における、歌詞の調子やフレーズ、形式、楽譜にある記号の意味（不等号のようなく＜＞）を理解しようとしているところだ。

(3) 歌詞の内容を理解して、自分なりの表現を工夫すべし

3 素晴らしい	私は歌詞の意味を理解し、情景や心情を思い浮かべ、自分なりの気持ちや思いを込めて歌うことができている。 ・私は歌詞の内容から自分なりのイメージを広げて強弱や速度などを工夫し、歌うことができている。
2 良い	私は歌詞の意味を理解し、情景や心情を思い浮かべることができている。 ・私は歌詞の内容から自分なりのイメージを広げて歌い方の工夫を考え、ワークシートに書くことができている。今、ワークシートに書いた工夫を生かして歌おうと努力しているところだ。
1 あと少し	私は歌詞のわからない言葉の意味を調べ、詩の内容を理解しようとしているところだ。 ・私は歌い方の工夫をこれから考えようとしているところだ。

■意義その二：表現を追究していく途中で、「上手く歌えない」、「声が出にくい」、「思いどおりの声が出ない」と感じるときは次の3つの項目をヒントにしよう

(4) 言葉の発音に気をつけるべし

3 素晴らしい	私は自然なフレーズの中で発音（子音・母音や濁音・鼻濁音）を意識して歌うことができる。
2 良い	私は発音（子音・母音や濁音・鼻濁音）を意識できている。それらが不自然に強調されないように努力している。
1 あと少し	私はまずは子音や母音を意識して歌おうとしているところだ。 ・私は濁音・鼻濁音を意識して歌おうとしているところだ。

(5) 音程とリズムに気をつけるべし

2 良い	私は音程、リズムなどを正確に歌うことができる。
1 あと少し	私は音程やリズムを正確に歌えるように努力しているところだ。

(6) 姿勢と発声に気をつけるべし

3 素晴らしい	私は、以下の4つ以上の点を実現できている。 ・私は足を握りこぶしが2, 3個入るぐらいに開けることができている。 ・私は肩をまわして下げ力を抜いて立ち、背筋を伸ばして耳たぶとくるぶしを結んだ直線が地面と垂直になっている。 ・私は常に重心をかかとに乗せることができている。 ・私は腹式呼吸ができている。 ・私はボールを、曲線を描くように飛ばすようなイメージと、教室の後ろまで声を届けるイメージをもって発声することができる。
2 良い	私は、以下の3つ以上の点を実現できている。 ・私は足を握りこぶしが2, 3個入るぐらいに開けることができている。 ・私は背筋をまっすぐに伸ばすことができている。 ・私は常に重心をかかとに乗せることができている。 ・私は腹式呼吸ができている。 ・私はボールを、曲線を描くように飛ばすようなイメージと、教室の後ろまで声を届けるイメージをもって発声することができる。
1 あと少し	私は足を握りこぶしが2, 3個入るぐらいに開けて立つことを忘れないようにしているところだ。 ・私は背筋をまっすぐに伸ばそうと努力しているところだ。 ・私は重心の位置がまだつかめていないので、探しているところだ。

■意義（総案）：適切な学習の手だてがとれているかどうか、以下の点をヒントにしよう

(1) 参考になる情報をうまく活用すべし

2 良い	私は、参考用CDからヒントを得て、自らの歌唱表現を高めることができている。 ・私は、「虎の巻」を活用して、自らの歌唱表現を高めることができている。
1 あと少し	私は、参考用CDから、自分の歌唱表現のためのヒントを得ようとしているところだ。 ・私は、「虎の巻」をみて、自分の歌唱表現を高めようとしているところだ。

(2) 友だちと助け合い、高め合うべし

2 良い	私は、友だちの歌唱表現を参考に、自らの歌唱表現を高めることができている。 ・私は、友だちの意見を取り入れ、自らの歌唱表現を高めることができている。
1 あと少し	私は、友だちの歌唱表現を参考にしようとしているところだ。 ・私は、友だちの意見を取り入れようとしているところだ。

しいものや、いずれかの観点において質が高いが他のいずれかの観点において質が低いものは「2 良い」と判断された。すべての観点において質が低いものや、表現の意欲がみうけられても音程が大幅に違っている等技術的な観点で大きな問題があるものは、「1 不十分」と判断された。

作成したループリックから生徒用ループリックを作成した。その際、上原先生のご指摘を受け、「1 あと少し」の文言を「理解していない」といった否定的な記述から、「～しているところだ」というように学習意欲を促す表現に統一した。また、上原先生によるネーミング「虎の巻」にヒントを得て、生徒の関心を促すように「奥義」、「～すべし」などの言葉を用いることを試みた。さらに、生徒用予備的ループリックの試行結果を受けて、正確に歌うだけでなくむしろ自分なりの表現の工夫に重きを置くことを促すために、技術的な観点を新観点(1)～(3)を支えるものとして位置づけた。具体的には、観点(1)～(3)を、「奥義その一」として、「以下の3つの項目をヒントに、『荒城の月』を深く理解しながら、自分なりの表現を追究しよう」という指示文を提示し、観点(4)～(6)を「奥義その二」として、「表現を追究していく途中で、『上手く歌えない』、『声が出にくい』、『思いどおりの声が出ない』と感じるときは次の3つの項目をヒントにしよう」という指示文を提示した。これにより、表現を工夫する観点と技術的な観点の統合のあり方を示すことができた。

他方で、歌唱パフォーマンスの観点とは別に、表現を追究する手だて（学び方）に関する「情報の活用」（「虎の巻」やCDからヒントを得る等）、「協同的な学び」（友だちの意見を参考にする）の観点を取り入れることの重要性にも議論が及んだ。今後「学び方のループリック」の開発が課題となろう。資料7, 8においては、チェックリストのレベルではあるが、その追加を試みている。

4. 3. 生徒Eさんのパフォーマンスについて

ところで、ループリックの作成過程で、最後まで評価者間で評価が一致せず評価保留となったパフォーマンスがある。生徒Eさんのパフォーマンスである。

Eさんは、人気のJポップグループを思わせるような独特の歌い方や発声の仕方です「荒城の月」を歌っていた。上原先生によれば、Eさんは、自分の好きなJポップ歌手の歌い方をイメージして歌っているということであった。Eさんの歌唱を、「自分なりに表現し、しっかりと歌えている」と評価した者もいれば、「しっかりと歌えてはいるが、『荒城の月』の楽曲の雰囲気に見合っていない」と評価した者もいた。このEさんのパフォーマンスから、音楽科の目指す「曲にふさわしい表現」とはどのようなものか議論する必要性が浮かび上がった。

4. 4. 専門的立場からの意見

作成したループリックの妥当性について、鳴門教育大学芸術・健康系教育部の音楽専門の頃安利秀教授、作曲専門の松岡貴史教授、指揮専門の山田啓明准教授からご意見をいただいた。ご意見は、各段階のアンカーの歌唱録画映像とワークシートをご参照いただきながら口頭でお伺いした。以下、ご意見を鍵括弧で示し考察を加える。

まず、全体的ループリックで「1 不十分」のアンカーのパフォーマンスに対して、松岡教授は、「声が出ていない生徒はなぜ声が出ていないのかを考える必要がある」、「声が出るようになる途中段階はどのようなものか、そういうループリックが必要なのでは」と述べられた。また、同じく「1 不十分」のアンカーに対して山田准教授は、「3人のうち2人は声の問題で出てないだけで、音感もっている」、「a a' は歌えなくても、bは歌えて、a'の最初は歌える現象は面白い。そういう力もっている。その子をどういう風に救ってあげるか」、「たとえば音程をとれない子は楽節をこえて音程をとりにくいということがある」と述べられた。これらのご意見は、ループリックの指導機能、学習機能の問題に関わるものにとらえられる。作成したループリックでは、音程が正確か否か、声が出ているか否かが1と2の段階を分ける指標となっている。しかし、教師も子どもも、たとえ音程がとれていない、声が出ていないということがわかりループリックによってそれを克服する必要性を自覚したとしても、このような技術的な観点において実際にその問題を克服するためには、生徒のパフォーマンスの発達についてのよりきめ細やかな理解と指導の手だてが必要になる。今後、1と2の段階の溝を埋める指導と学習に結びつくループリックの可能性を探ることが課題となろう。

次に、頃安教授は、「ただ単に上手く歌えるというのではなく、どういう風に曲ができたか、滝廉太郎が詩を読んでどういう風なことを感じ、それを歌にしていたのか、そういうことを子どもたちが感じられるようになる」と素晴らしい、「いきなり歌うのではなく、朗読させる、それが歌になる」と述べられた。このような歌うことのあり方に関連して、山田准教授は「普通の人には楽譜をみて歌うことはほとんどない。自然に音楽が体のなかに取り入れられて歌いだす。今の感じでは、子どもが歌いたいと沸き上がるまでになっていない。メロディが身体に入って外に出て行くプロセス、そういった観点があっても良いのではないかと述べられた。これらのご意見は、本ループリックの妥当性の問題を越えて、詩から歌になる、体にメロディが入って歌い出すといったような歌うことのプロセスを歌唱の授業にどのように生かしていくかという課題を示すものととらえられる。

さらに、松岡教授は、「この曲は、日本的な歌唱。追分節のように高いところではった声のでる歌い方、一音一

音ははっきり際立たせるような、張りつめた、パーンという感じ。そのためには、おーい！元気かー！とかやってみるとよい。そういう身体の作り方。」と述べられた。このご意見は、先述のような声が出ていない子の指導の問題に関わると同時に、音楽科における「曲種に応じた発声」の問題に迫るものととらえられる。本ルーブリックの発声に関わる観点においては西洋的な頭声発声を念頭においていたが、「荒城の月」においてどのような発声を求めるべきかを再検討することが課題となろう。

最後に、ルーブリック作成過程において音楽科で求められる「曲にふさわしい表現」のあり方を問う契機となったEさんのパフォーマンスについてご意見をお伺いした。頃安教授は、「いいと思う。歌というのはその人の感性」、また「身体を使って歌うことができている」と述べられた。松岡教授は、「評価する。歌い方はポップス的であると同時に演歌的でもある。自分の中から滲み出てきたものを1つにしてしまわない方が良い」と述べられた。山田准教授は、「一番良い。自分の歌い方を身につけている。われわれは暗黙のうちに西洋の歌い方の考えをもってしまっているが、1つの歌い方しかない和无色になってしまう」と述べられた。これらのご意見から、3人の先生方は決してある固定された「ふさわしさ」を求めておられないことがうかがえた。

5. おわりに

以上のように本研究では、ルーブリックの指導と学習の機能に着目し、音楽科における思考力・判断力・表現力の育成を目指すルーブリック開発とそのあり方の検討を行った。ルーブリック開発は教師1人でできるものではなく、また多忙を極める教師たちにとって各題材でルーブリックを作成することは困難である。そのため、その実用性を疑問視する声もあろう。しかしながら、本研究ではルーブリック開発の過程で、評価のみならず、音楽科の目標や内容、指導や学習のあり方を問う議論が活発となった。また、ルーブリック作成のために生徒のパフォーマンスにじっくりと向き合ったことにより、生徒たちの音楽的な発達の問題にも議論が及んだ。このように、音楽科における多様で根本的な問題を検討する機会を得られる点にこそ、ルーブリック開発研究の意義を見出したい。

引用文献

育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会「論点整理」、2014年3月。
小山英恵「子どもに寄り添うパフォーマンス評価の実践から 体育 実践 Review」田中耕治編『パフォーマ

ンス評価 思考力・判断力・表現力を育む授業づくり』、ぎょうせい、2011年、pp.121 - 122。

西岡加名恵『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法』図書文化、2003年。

Wiggins, G. (1998) *Educative Assessment*. San Francisco: Jossey-Bass.

謝辞

本研究にご協力いただいた上原祥子先生および3年生の皆さん、頃安利秀教授、松岡貴史教授、山田啓明准教授に心からの謝意を表したい。